

平成28年度 自己評価計画書

石川県立金沢北陵高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 あいさつ・礼儀作法・身だしなみ・時間厳守について、職員の共通理解による時宜にかなった指導を確立し、規範意識を育む。	① 時間厳守の指導を徹底することで、遅刻・欠席者数の減少と皆出席を奨励する。また、登校指導等により挨拶の励行を推進する。	生徒指導 学年 各教科	昨年度の皆出席者数は、学年平均で52人であった。遅刻者数・欠席者数ともに減少する傾向にあり、落ち着いた状況である。自ら進んで挨拶できる生徒を少しでも多くしたい。	【成果指標】 皆出席者数の増加に努める。	学年あたり1年間の皆出席者数が A 80人以上であった B 60人以上～80人未満であった C 40人以上～60人未満であった D 40人未満であった	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	毎学期調査
				【努力指標】 (生徒) (保護者) (教員) 生徒自ら進んで挨拶ができる。	自ら進んでの挨拶が A よくできている B だいたいできている C あまりできていない D ほとんどできていない	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規律・マナーの向上を目指す。	生徒指導 学年	制服の着用が乱れ、マナーを守れない生徒が一部ではあるが見受けられる。	【満足度指標】 (生徒) (保護者) (教員) 様々な機会を捉え、服装・頭髪に関する注意を与えることにより、自発的に規律・マナーの向上に努める。	北陵生は頭髪・服装容儀やマナーなどについて A よく守っている B だいたい守っている C あまり守っていない D ほとんど守っていない	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	③ 生徒の行動に注意を払い、生徒の面接や保護者との連絡をより密にし、学校組織として生徒理解を深める。	総務 学年 生徒指導 保健相談	教職員がこれまでに以上に生徒理解に努め、学校生活に満足している生徒を増やす必要がある。	【満足度指標】 (生徒) (保護者) 生徒、保護者それぞれの目から見た本校の教育活動に対する満足度を見る。	本校での学校生活に満足していると回答する割合が A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
2 ICT機器の活用や協働学習などを通して授業改善に努め、主体的・能動的な学びへと変革し、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。	① 研究授業や公開授業を積極的に行い、授業改善に努める。	教務 各教科	授業では生徒の発言や活動を促す授業展開を図るため、授業の工夫が必要である。	【努力指標】 (教員) 授業評価や研究・公開授業・授業参観などを実施し、特に少人数授業の工夫に努める。	授業では生徒の発言や活動を増やす授業の工夫に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的な取り組みはできなかった D ほとんど取り組めなかった	A+Bの合計が90%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	② わかる授業を行うとともに、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努める。	教務 各教科	ICT機器を使用する教員は比較的多い。さらに活用の工夫が求められている。	【努力指標】 (教員) 教育ICT機器の効果的な活用や工夫に努め、生徒が意欲的に学習に取り組むように勤める。	ICT機器の効果的な活用に努めている教員の割合が A 80%以上である B 70%以上～80%未満である C 60%以上～70%未満である D 60%未満である	70%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月末に調査
	③ 家庭での学習習慣の定着を図る。	教務 進路指導 学年 各教科	家庭学習時間が45分未満の生徒が7割である。適切な学習課題を与え、習慣化させる必要がある。	【成果指標】 (生徒) 自主的な学習を継続的に取り組むことができた。	家庭での平均学習時間が A 90分以上である B 60分以上～90分未満である C 45分以上～60分未満である D 45分未満である	A+Bの合計が50%未満の場合次年度の取り組みを再検討	年7回調査

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 組織的なキャリア教育と面談によりガイダンス機能を充実させ、生徒が高い目標を持ち、自らの能力や適性を発見して進路の実現を図る。	① 各学年に応じた進路学習を工夫し、主体的で継続的な学びができるように支援する。	進路指導 教務 学年	多様な進路希望に対応するために組織的な指導体制と生徒一人ひとりに対するガイダンス機能の充実が求められる。	【努力指標】（教員） 生徒が自らの適性を理解し、進路目標をより明確に定めることができるよう、少しでも多くの個人面談を行う。	担任と生徒との1年間の個人面談回数が A 8回以上 B 6回以上 C 5回以上 D 5回未満	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	7月、12月月末に調査
				【満足度指標】（生徒） 進路行事・「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」を通じて、進路について意識し考えることができた。	進路行事・「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」の学習が進路を考える上で A 大いに役立った B ある程度役立った C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月月末に調査
				【成果指標】（生徒） 進学志望の生徒が第一志望校に合格することをより重視する。就職については、早期に内定率100%となるよう指導する。	四年制大志望者のうち第1志望校に合格した生徒が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 就職希望者が A 10月末で100%内定を達成 B 11月末で100%内定を達成 C 12月末で100%内定を達成 D 12月末で100%内定に達していない	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	年度末に集計
	② 各種資格・検定試験に取り組む機会を設け挑戦する意欲を喚起する。	各教科 学年 進路指導	昨年度、各種資格・検定試験を取得・合格した生徒は延べ760人であった。	【成果指標】（生徒） 各種資格・検定試験に多くの生徒が挑戦し、取得・合格数を増やす。	新たに資格・検定を取得・合格した生徒の延べ人数が A 1000人以上であった B 900人以上～1000人未満であった C 800人以上～900人未満であった D 800人未満であった	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	年度末に集計
	③ 保護者や関係機関と連携を深め、進路指導の充実を図る。	進路指導 学年	保護者に対する進路情報について、適切な提供時期と内容を工夫・充実させる必要がある。	【満足度指標】（保護者） 進路について、必要な情報が提供されている。	提供された情報に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A+Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月月末に調査
4 部活動や学校行事、地域貢献活動を通して、よりよい人間関係の構築と活力ある学校生活の充実を図る。	① 部活動の活性化を目指し支援・運営する。	特活 全職員	昨年度の部活動加入率は80%である。生徒が部活動に対し、より主体的に取り組めるような指導上の工夫が求められる。	【成果指標】（生徒） 部活動への加入率を高め、充実した高校生活になるよう支援する。	部活動への加入率が A 90%以上である B 85%以上～90%未満である C 80%以上～85%未満である D 80%未満である	80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	5月、10月に調査
				【成果指標】（生徒） 生徒が部活動に主体的に取り組む、切磋琢磨することを通して、豊かな人間関係を築く。	部活動に対し満足感・達成感を感じている生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上～90%未満である C 70%以上～80%未満である D 70%未満である	70%未満の場合次年度の取り組みを再検討	7月、12月月末に調査
	② 地域行事・学校行事等に参加し、地域との連携を密にする。	特活	昨年度、学校以外で地域の活動に参加した生徒は学校全体の約半数であった。	【成果指標】（生徒） 北陵アバンテを除く、地域の清掃活動や行事、ボランティア等に参加する。	休日も含めて年1回以上参加した生徒が A 500人以上であった B 450人以上～500人未満であった C 400人以上～450人未満であった D 400人未満であった	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	7月、12月月末に調査